

# 衛星画像が示す抑圧施設の拡大

朝鮮民主主義人民共和国で進行する  
組織的な人権侵害

2013年12月

アムネスティ・インターナショナル報告書



**AMNESTY  
INTERNATIONAL**

公益社団法人 アムネスティ・インターナショナル日本  
[amnesty.or.jp](http://amnesty.or.jp)

## 目次

はじめに .....	1
背景 .....	2
調査方法 .....	3
最新の衛星画像の分析結果.....	4
居住棟と管理棟の建設.....	6
厳重な警備と管理体制.....	10
労働活動 .....	12
結論 .....	16

## はじめに

アムネスティ・インターナショナルは 2013 年 10 月、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）咸鏡南道（ハムギョンナムド）にある第 15 号政治囚収容所(ヨドク収容所)と咸鏡北道（ハムギョンブクト）化成（ファソン）郡にある第 16 号政治囚収容所の衛星画像を分析した。第 16 号収容所は、同国最大の政治囚収容所である。衛星画像からは、施設が拡張され、第 16 号収容所では収容者の数が増えている可能性があることが分かった。世界では収容所の閉鎖を求める声が高まっているが、今回の調査で収容施設による抑圧は依然維持され、組織的で深刻な人権侵害が行われていることがあらためて浮かび上がってきた。

これまで北朝鮮当局は人権調査官の立ち入りを拒否してきた。アムネスティなどの人権団体は衛星画像などの遠隔探査データを活用して、同国の過酷な人権状況に関わる情報を収集・開示することで、調査官の受け入れを認めざるを得ない状況を作ろうとしてきた。アムネスティが以前発表した衛星画像分析では、政治囚収容所の利用が拡大しており、第 14 号収容所が周辺の村々に入り込んでいる様子を明らかにした。今回の報告では、ヨドク収容所と第 16 号収容所について、包括的な情報を収集し分析した。

また、第 16 号収容所の元刑務官とヨドク収容所の元囚人が、実際に目の当たりにした抑圧状況を語ってくれた。人権をことごとく組織的に侵害してきた同国政府は、国連調査委員会（COI-DPRK）や国連特別報告者、アムネスティなど国際人権団体の第三者による人権調査の受け入れを拒否している。

アムネスティ・インターナショナルは、同国に対し、あらためて以下を要請する。

- 政治囚収容所の存在を認め、即時閉鎖すること。
- 収容所にいる良心の囚人全員と「連座制」に基づいて収容されている親族を、即時無条件に釈放すること。
- ほかの収容者も、国際的に定義された罪状によって、独立した裁判所で公正な裁判にかけられない限り、全員釈放すること。
- アムネスティ、COI-DPRK、北朝鮮の人権状況に関する国連特別報告者をはじめとする独立した国際人権監視者にすべての収容所を含む施設への立ち入りを認めること。

これに加えて、アムネスティはアジア太平洋地域のすべての国、とりわけ中国とラオスに、国際法上の義務に従い脱北者の強制送還をやめることを要請する。強制送還されれば、収容所に送られるなどの深刻な人権侵害にさらされる可能性が高い。

## 背景

北朝鮮では子どもを含め何十万もの人びとが、政治囚収容所などの拘禁施設に収容され、組織的で深刻な人権侵害にさらされている。収容所にいる人びとの多くは、何の罪も犯していないにもかかわらず政権に否定的な態度とみなされた人びとであり、また連座制により拘束された親族だった。

アムネスティはここ数年、元被収容者や元刑務官から直接話を聞き、拘禁施設内の状況や処遇の情報を収集してきた。ヨドク収容所の元被収容者の話では、被収容者は奴隷のような扱いで働かされ、拷問などの残虐で非人道的な取り扱いをしばしば受けるという。聞き取り調査に応じた全員が被収容者の公開処刑（絞首刑か銃殺刑）を目撃していた。1980年から1989年までヨドク収容所にいたキム・ヨンスンさんは、脱走を試みて捕まった被収容者2人の公開処刑の様子を語った。2人は激しく殴打された後、台の上に引き上げられ、木の杭に縛りつけられて、頭、胸、足の各部位を銃で撃たれたという。1980年代から1990年代の半ばまで第16号収容所の警備官だったりさんも処刑を目の当たりにしていた。被収容者が自分の埋葬場所を掘らされ、刑務官にハンマーで首を殴られて殺された。刑務官が被収容者の首を絞めて、木製の棍棒で殴り殺すところも見たという。警備官に強かんされた後、姿を消した女性収容者も複数いた。女性たちは秘密裏に処刑されたのではないかという。

同国政府は、衛星画像をもとに何度も明らかにしてきた政治囚収容所の存在をずっと否定してきた。政治囚収容所という制度のもとで、10万を超える人びとが恐るべき人権侵害を受けていると思われる。また、一般の人びとの暮らしも極度に抑圧されている。食糧不足に苦しみ、恣意的に拘束されて政治囚収容所などに拘禁されるのではないかと絶えず怯えて過ごしている。

表現、集会、結社の自由は、建国当初から事実上、存在しない。2011年12月に権力を掌握した現指導者の金正恩は、新政権に絶対逆らえないように、最近さらに厳しい制限を課しているとみられている。独立したメディアも、独立した野党も、独立した市民社会も存在しない。政権批判者は、政治囚収容所など拘禁施設への収容という形で罰せられる。インターネットにアクセスできるのは選ばれた少数の国民だけで、それもほとんどの場合、厳しく監視されたイントラネットのネットワークを通じてだ。携帯電話の使用は厳しく制限されている。市民の移動も、海外であれ国内であれ厳しく制限されている。移動制限に違反すると、厳罰を科せられる。

深刻で慢性的な食糧危機により栄養不良、食糧不足がまん延する中で、移動が厳しく制限されている。2013年の北朝鮮当局の言動は、政府が人びとの国外脱出を阻止する対策を強めていることを示唆している。人びとは国の許可なしに海外へ行けず、取り締まりや国境警備の強化によって、中国との国境を越えることは極めて困難になっている。韓国政府の統計によれば、韓国への脱北者は、2011年は2,706人だったが、2012年は1,509人と激減した。

## 調査方法

調査対象の政治囚収容所の実態は、元収容者や警備員からの証言、衛星による遠隔探査データなどから得た情報をもとに判断した。画像分析結果は、アムネスティの「人権のための科学プログラム」が、米商業衛星企業デジタルグローブ社から入手した。第 15 号収容所(ヨドク収容所)と第 16 号収容所の画像を調べて、以下の施設と時間の経過に伴う施設の変化をまとめた。

- 1.周囲のフェンス、守衛所や詰所
- 2.出入管理と検問所
- 3.管理棟、居住棟、収容棟
- 4.経済活動
- 5.道路、鉄道などのインフラ
- 6.食糧など物資の保管施設

ヨドク収容所の衛星画像の調査期間は 2011 年から 2013 年までである。分析した画像は 2011 年 3 月、2012 年 2 月、2013 年 4 月と 9 月に撮影されたものが含まれている。

第 16 号収容所の調査期間は 2008 年から 2013 年にまで及んだ。画像は、2009 年 8 月と 10 月、2010 年 6 月、2011 年 5 月と 9 月、2012 年 11 月、2013 年 4 月と 5 月である。

## 最新の衛星画像の分析結果

アムネスティはヨドク収容所と第 16 号政治囚収容所の衛星画像の分析を専門家に委託して、2 カ所の収容所の現状を評価した。ヨドク収容所は首都ピョンヤンからおよそ 120 キロ離れた咸鏡南道地区ヨドクにあり、第 16 収容所はピョンヤンからおよそ 400 キロ離れた咸鏡北道（ハムギョンブクト）化成（ファソン）郡華城市にある。



分析結果からは、重大な懸念が浮かび上がった。政治囚収容所では、強制重労働、食料配給停止、拷問など、残虐で人道的な人権侵害が組織的に行われてきたし、現在も変わっていない様子である。さらに、収容所のインフラを整備・拡充しているもようである。遠隔探査で収容所の情報収集が可能となり、それによって明らかになった具体的な状況を以下に述べる。

- 集合住居：第 16 号収容所については、収容人数の拡大をうかがわせる居住施設数の増加が見て取れた。衛星画像は建設中の住居もとらえており、施設内の部屋の間取りと広さなど建物の構造が正確に把握できる。今後の調査に寄与し、収容人数を判断する目安にもなりうる、貴重な情報である。
- 警備と管理：収容所は厳重な管理のもとに置かれ、境界がフェンスで明確に区別されている。収容所の周囲には警備フェンスがめぐらされ、厳重警備の入口ゲート、守衛塔、敷地内検問所などがあり、移動は制限と監視のもとにある。

- 労働活動：採鉱、伐採、農業などの経済活動が盛んに行われているもようだ。例えば、2010年から2012年にかけての第16号収容所の画像は、所内の工業地域の拡大を物語っている。

第16号収容所は、広さが約560キロ平米と東京都八王子市の3倍もあり、同国最大の政治囚収容所だ。そして数ある政治囚収容所のなかでも、実態がわからない施設のひとつである。ほかの収容所と同様、警備の厳しい出入口、守衛塔、検問所など監視施設を有する。2008年から2013年の間に増築された住居から、被収容者数がやや増加したことがわかる。

ヨドク収容所の面積は、370平方キロだ。主な経済活動は農業と採鉱で、住民は川の流域に集中している。アムネスティは2011年、同収容所の衛星画像の分析を委託した。その後、同収容所周辺で小さな変化があった。調査期間中、新たに35の非居住建造物が建てられており、同収容所の設備が整備・拡充されていることを示唆している。また、居住施設では、39の住居が解体され、6棟の新しい住居が建設された。住居数の減少から、被収容者の人数が減少していると考えられる。

2つの収容所の動きを見ると、その拡充が着々と進められている様子がうかがえ、国家的な人権侵害の温床が拡大していることがわかる。

## ●居住棟と管理棟の建設●

第 16 号収容所の中心部（管理施設区域）には、居住施設の増加など、もっとも顕著な変化が見られる。2010 年には管理棟が新設され（写真上）、2011 年と 2012 年に計 8 つの居住棟が建設された（写真下）。



DigitalGlobe Natural Color Imagery, [May 18, 2011](#), 41.310814°, 129.346097°



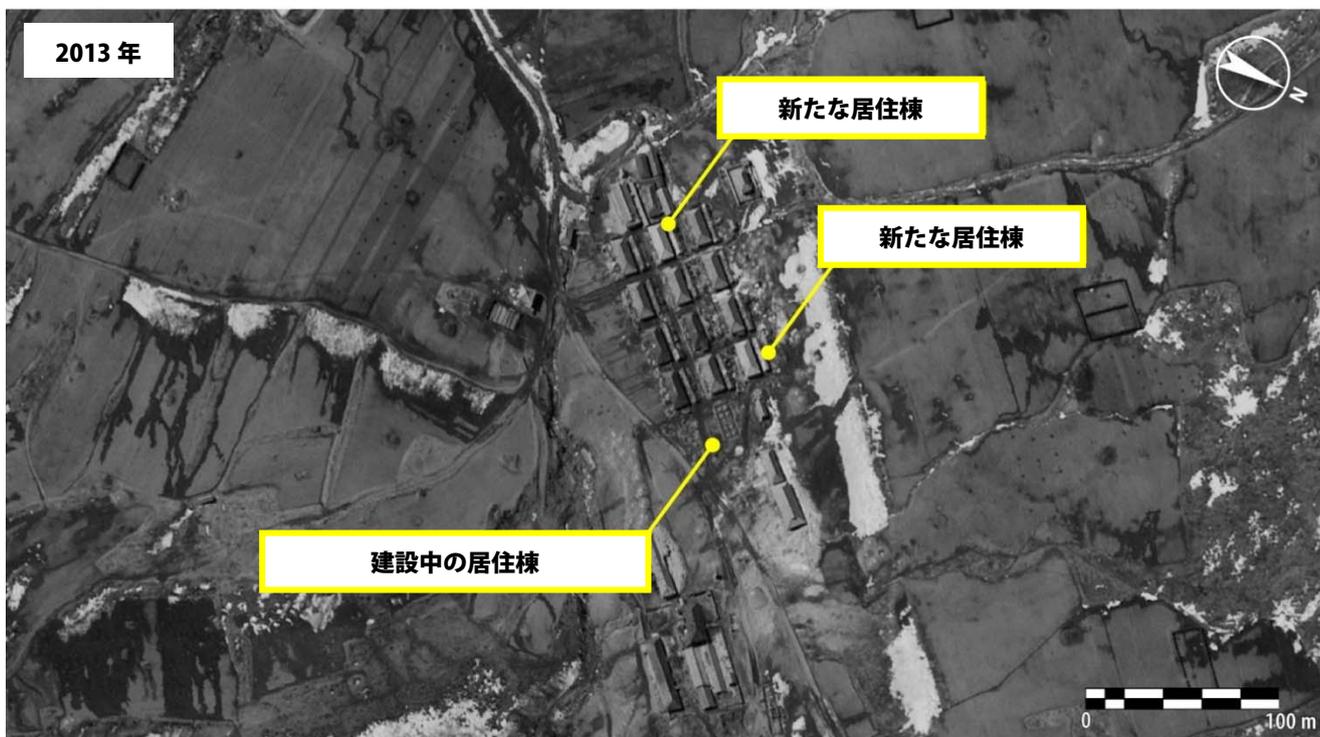
DigitalGlobe Natural Color Imagery, [May 26, 2013](#), 41.310814°, 129.346097°

第 16 号収容所北部にある居住区域の拡大画像を見ると、2011 年（写真上）にはなかった居住棟が、2013 年（写真下）には新たに 3 カ所増えている。（うち 1 カ所は建設中）

居住区域のすぐそばに守衛所があることは、収容所の警備の厳しさを物語っている。



DigitalGlobe Natural Color Imagery, [September 23, 2011](#), 41.385843°, 129.101535°



DigitalGlobe Panchromatic Imagery, [April 4, 2013](#), 41.385843°, 129.101535°

2013年に撮られた第16号収容所正門付近の拡大画像では、建設中の居住棟がさらに2棟写っている。各棟、4m x 3.5mの部屋10室で構成されている。



各棟に10室ある居住棟

DigitalGlobe Natural Color Imagery, May 26, 2013, 41.254500°, 129.367523°

第 15 号（ヨドク）収容所では、2011 年から 2012 年の間に管理上の施設群が新設あるいは再建されている。この設備の機能は断言できないが、守衛詰所または伐採作業用の管理施設であると考えられる。

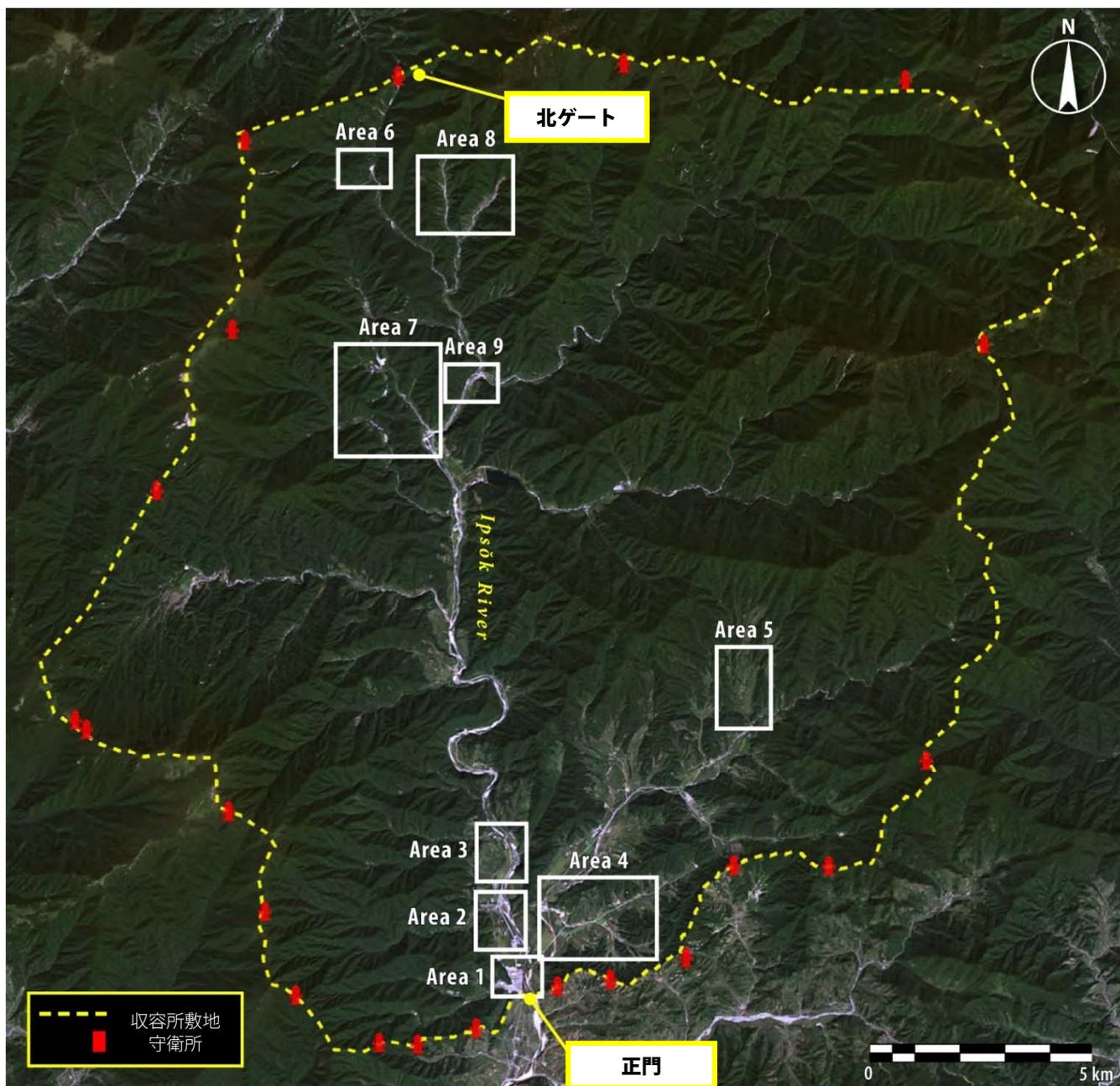


※画像は次ページ全景におけるエリア 6 のクローズアップ

## ● 厳重な警備と管理体制 ●

どちらの収容所の画像も、移動が制限されている様子が示されている。

ヨドク収容所（下の写真）では、広大な敷地が二重フェンスで囲まれ、多数の守衛所が置かれている。出入りは厳重に監視され、南北各1カ所のゲート以外は出入不可能である。



Landsat-8 Imagery, September 16, 2013, 39.761906°, 126.863365°

敷地内の移動も制限されているようである。2010年6月に撮られた第16号収容所の画像（下）には、検問所が写っている。



DigitalGlobe Natural Color Imagery, [June 11, 2010](#), 41.301995°, 129.363418°

## ●労働活動●

衛星画像からは、採鉱、伐採、農業を中心とした生産設備の維持管理を強化している様子が見える。2010年の画像では、第16号収容所における新たな設備の建設が確認できる（写真上）。2012年11月の画像（写真下）を見ると、この工業設備が稼働して、新しい補助施設もあるようだ。



DigitalGlobe Natural Color Imagery, [June 11, 2010](#), 41.261302°, 129.375145°



DigitalGlobe Panchromatic Imagery, [November 18, 2012](#), 41.261302°, 129.375145°

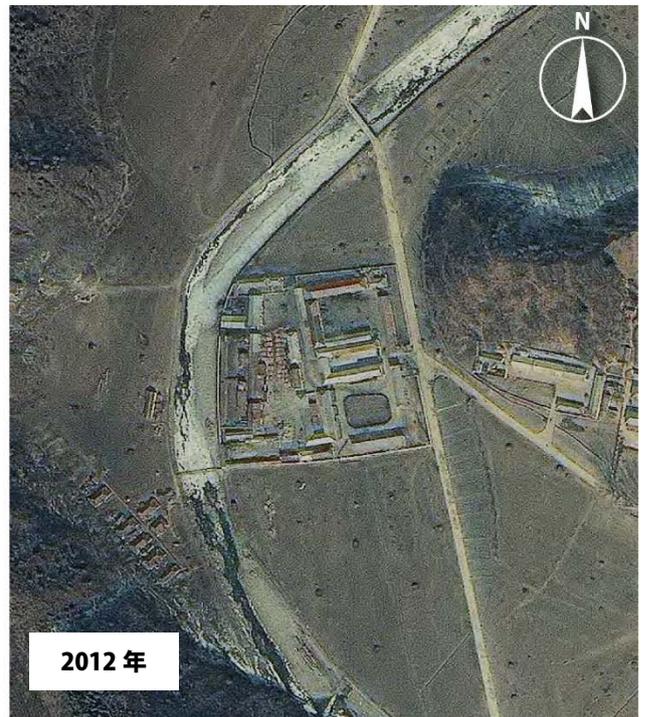
伐採は、どちらの収容所でも広範囲に見られる。下はヨドク収容所の画像だが、伐採作業が 2 年間継続して行われていることがわかる。(P 10 全景写真のエリア 8)



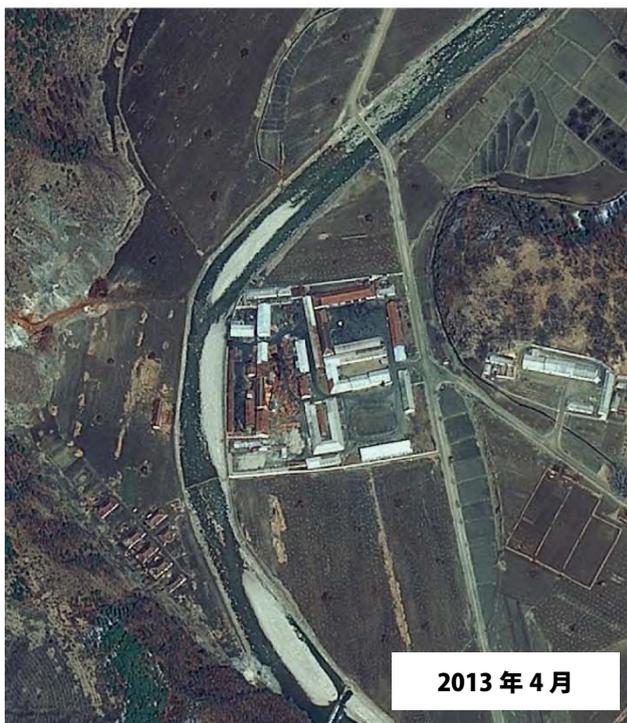
2011年から2013年にかけてヨドク収容所の同じ場所を写した画像を比べてみると、家具工場があると推定できる。木材の量の変化が、生産活動を示している。



DigitalGlobe Natural Color Imagery, [March 26, 2011](#), 39.689814°, 126.857436°



DigitalGlobe Natural Color Imagery, [February 22, 2012](#), 39.689814°, 126.857436°



DigitalGlobe Natural Color Imagery, [April 7, 2013](#), 39.689814°, 126.857436°



DigitalGlobe Natural Color Imagery, [September 27, 2013](#), 39.689814°, 126.857436°

ヨドク収容所の元囚人の証言によると、囚人は全員、危険な労働環境の中で、生産施設、採鉱、伐採、農業などで1日10時間から12時間の強制労働を課せられる。仕事の割り当てをこなさなければ、食料配給が減らされるか止められる。1999年から2001年まで、ヨドク収容所内に拘禁されていたキムさんとリさん夫婦は、次のように語った。

「農場で朝7時から夜8時まで働いた。トウモロコシを栽培していた。10人から15人のグループに分けられて働いた。毎日ノルマが与えられ、達成しなければグループ全員が罰せられる。3年間ずっと空腹で体は弱っていたので、何度もノルマを達成できなかった。罰として殴打され、食料を減らされた。おまけに、作業の後にはイデオロギー闘争活動があり、ノルマ未達成の人はほかの囚人から厳しく非難され殴られる」

第16号収容所に勤務していた元刑務官のリさんによると、被収容者たちはこき使われ、危険な状況で一日中働きずくめであった。休憩時間はないに等しい。ほとんどの場合、ノルマを達成するまで働かなければならない。作業が終わると自己批判の活動に出席しなければならず、それが終わって初めて休息が許される。休息はたいてい深夜12時から朝4時までだった。リさんは、作業場での事故を何度か目撃した。その多くが致命的なものであった。

## 結論

衛星画像分析の結果、2カ所の政治囚収容所はいずれも活発に活動しており、施設の整備・拡充が継続されていることが明らかになった。第16号収容所では被収容者の数の増加が推定される。彼らは拷問、処刑、強制労働、悲惨な環境での生活など重大な人権侵害を受けていることが、複数の元囚人と元刑務官による証言で明らかになった。また、採鉱、伐採、農業などの大規模な経済活動が行われていることも画像分析で明らかになった。元関係者による証言から、こうした経済活動は囚人の労働力に支えられており、その囚人たちが危険な状況で長時間働き、罰として食料供給を止められ、休息もろくにとれない状況に置かれていることがわかった。さらに、2つの政治囚収容所が厳重に管理されており、移動には、警備された入口、守衛塔、検問所を通らなければならないことも、憂慮すべき点だ。

今回の分析結果にもとづき、アムネスティは北朝鮮政府に次のことを強く求める。

- 政治囚収容所の存在を認め、直ちに閉鎖すること。
- 収容所のすべての良心の囚人および連座制に基づき収監されている親族を即時かつ無条件に釈放すること。他の囚人は国際的に定めた犯罪で起訴しないのであれば釈放するか、独立した裁判所が再勾留し、公正な裁判を受けさせなければならない。
- アムネスティ、北朝鮮の人権に関する国連調査委員会 (COI-DPRK)、同国における人権の状況に関する国連の特別報告者など、独立した国際人権監視機関が、すべての収容所など国内施設に立ち入りを認めること。

North Korea: New satellite images show continued investment  
in the infrastructure of repression

ASA 24/010/2013

Date Published: December 2013

**AMNESTY  
INTERNATIONAL**



アムネスティ・インターナショナルは、1961年に発足した世界最大の国際人権NGOです。人権侵害に苦しむ人びとの存在を知り、「自分も何かできたら」と願う、300万人以上の人びと、一人ひとりによって成り立っています。ハガキ書きをはじめとする、市民の自発的な行動による人権状況の改善への取り組みが認められ、1977年にはノーベル平和賞を受賞しています。

公益社団法人 アムネスティ・インターナショナル日本  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F  
TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778  
[www.amnesty.or.jp](http://www.amnesty.or.jp)